

# ARTSHIP明石2023

みんなで創ろうアートのもち  
～ひとり一人が輝く明石の星～



アートシップあかし



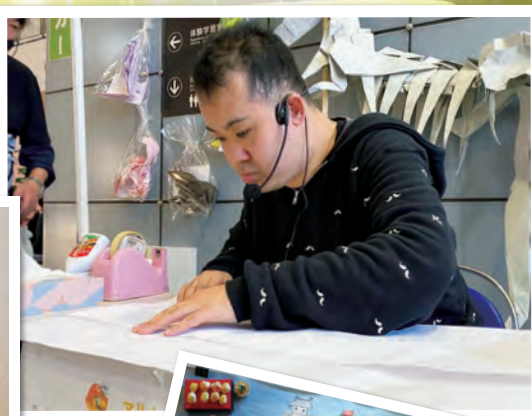
ARTSHIP明石2023開催期間

2023年

12月6日(水)～12日(火)

10:00～17:00

明石市立文化博物館



## CONTENTS

1p ごあいさつ  
2～4p アートシップを振り返る

5～6p 作品紹介・同時開催!「ARTSHIP明石2023」イベント  
7p ヘルプマーク・ヘルプカードを知ってますか?



## いろいろなアートを楽しんだ 2023年度のアートシップ

特定非営利活動法人  
明石障がい者地域生活ケア  
ネットワーク  
アートシップあかし2023

担当理事 浅原奈緒子さん



昨年は「10周年」を意識して「ワークショップや、素敵な音楽を楽しんでいただいたアートシップ」でした。今年はどんなことをやっていこうか、昨年と同じような規模でやるかなど、4月から担当者で相談しながら進め、今年も、昨年から始まった明石市文化博物館主催のクリスマスマーケットとコラボさせていただくことが決まりました。アートシップを迎えるまでの月に1度の担当者会議では、展示会場でのワークショップや来館してくださった方への記念ステッカーやパンフレットを作る担当を決めるなど、出展する事業所が集まって相談しながら進めた「みんなで作り上げた2023年度アートシップ」になりました。

今年は、明石市文化博物館からもワークショップやオルガンの演奏などがあり、アートシップからはワークショップでは折り紙パフォーマンス、演奏では和太鼓、ギター、バイオリン、ハンマーダルシマがありました。クリスマスマーケットでは雑貨や食べ物の販売もあり、昨年以上ににぎやかなものとなりました。

展示会場では、個人や事業所ごとの個性がキラリと光ったとても素敵な作品が展示され、来館された方も「とても素敵ですね」「かわいいいな」「どんなものを使って作ってるんでしょう」などと、興味をもって観てくださっていました。

さまざまな感覚を共有し合いながら日常のひとときを楽しむ機会となれたのではないかと嬉しく思っています。

福祉施設における美術活動が注目されてきている今、アウトサイダーアートというジャンルのアートをよく目にします。アール・ブリュットともいわれ、身近な日常でさまざまな表現が生まれる独自の芸術活動、障がいや生きづらさを抱える人の作品としても知られています。アートには、人の心を変える大きなチカラがあると感じます。今後も、アートシップを通して、お互いを認め合い、障害の有無を超えた交流が広がることを目指していききたいと思います。



## アートシップあかし2023を 振り返って

特定非営利活動法人  
明石障がい者地域生活ケア  
ネットワーク

理事 佐藤 右京さん



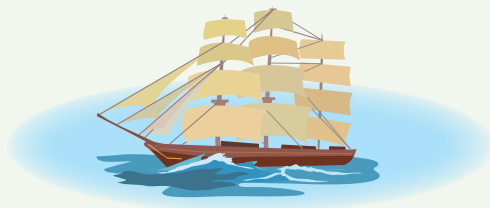
「芸術は爆発だ」かの岡本太郎画伯は言いました。

昭和を生きた私にとって、アート鑑賞しての最高評価の表現です。どうかご理解ください。(笑)

今回のアートシップあかし2023は出展作品数も過去最高を記録し、それも見応えの要素でしたが、それぞれの作品の感性豊かなこと、見事でした。

圧倒されたこと、思わず「芸術は爆発だ」とつぶやいていました。これらがテーマも描き方も自由な中、子どもから大人まで、環境も材料画材ももっと言えば価値観も違う人たちがワンチームとして一つになり作品を仕上げたことに感動します。当然、多種多様な作品が生まれ、これが観る方々に共感や思考への刺激になるように思えます。

あらためて、次回、作品展が待ち遠しくなるアートシップあかし2023でした。



特定非営利活動法人 ウィズアス  
就労継続支援事業所 ほのぼの

サービス  
管理責任者 那須 徹哉さん



アートシップは11年目を迎えた。週末の風景は今まで理想としてきた夢に見る華やかなものだった。先生と一緒に来場する子ども達、たくさんの家族連れ、福祉作業所の仲間たち、明石市立文化博物館とのコラボ企画はイベントも物販も笑顔で満ち溢れていた。この賑わいは正夢である。今回「作業所ほのぼの」は作品展テーマモニュメント制作・折り紙ワークショップ・和太鼓ライブ・自主製品販売、そして作業所ほのぼのブース展示、特盛だ。仲間達とのコラボ企画はデリケートでそれぞれが彼らの喜びに至らなければアウトである。どれもクリアできたことは博物館傍に在るお地蔵さんの御蔭だろう。僕は障がい者美術展「アートラボゆめのはこ」＋「くなどびとアート展」に実行委員として関わっている。それは障害のあるなしにかかわらず隔たりのない街づくりアートイベントで何だか性質・方向性がアートシップに似ている。

例年「原田の森ギャラリー」で開催され神戸では毎回2千人を超える集客を誇る。

今回アートシップ乗組員みんなで創ったモニュメントが「アートラボゆめのはこ」美術展で展示される事になった。2024年6月6日～9日神戸「原田の森ギャラリー」にて。 明石 ～船は出港～ グランドラインへ





## 答えは、一つではない

就労継続支援B型事業所  
ワークスペースななかまど

総務 加々良 舞さん



アートシップあかし2023の会場に足を運んでくださった皆様、誠にありがとうございました。

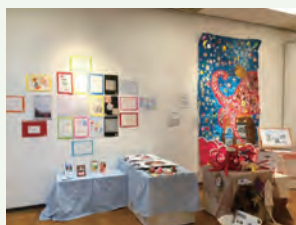
ワークスペースななかまどからは、絵、ちぎり絵、刺繍、詩、ペーパークイリング作品を出展させていただきました。

特にちぎり絵は利用者様が毎日コツコツ制作されたもので、年を重ねるごとに上達されており、職員からは『新聞が取材に来ないかな?』という声も聞かれるほどです。会場には小さなお子様の姿も多く見られました。もうすぐ4歳になる私の息子もアートシップあかしのファンの一人です。

さて、美術品と日用品はどう違うと思いますか? 遠い昔、大学の美術史が何かの最初の授業で、このように聞かれました。例えば教室に並んでいる机。これは美術品ではないのでしょうか? なぜ? 模範解答は流行りのchatGPTに任せますが、アートシップあかしの準備に取りかかるとき、私は毎年このことを考えます。美術品とは。そして、アートとは。

事業所に通う利用者様の中には、驚くような絵画や造形の才能を発揮される方もいらっしゃる、手指の巧緻性や見え方、感覚などの問題で、できることが限られている方もいらっしゃいます。しかし、会場に並んでいるのはみな、『どうやって作ったの?』と目を見張るような、緻密で、独創性に溢れた作品ばかりです。アートとは、『〇〇』である。私たちの答えは、一つではありません。

最後になりましたが、2022年はチラシ制作を、2023年はスタンプアートに使用するスタンプの制作を任せていただきました。貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



## 作家さんの顔

特定非営利活動法人  
こぐまくらぶ 明石事業所  
美喜 美和さん

アートシップは、今年で11年目を迎え、年々賑やかになっていると感じています。

一昨年から、クリスマスマーケットも開催され、より多くの方に楽しんでいただけるイベントになり、幅広い年齢層の方が来てくださいました。

当法人の利用者様は、目をキラキラさせて、それぞれの作品を見ていくのですが、自分たちの造った作品の前では、作家さんになり、とても誇らしげな様子でした。

今回こぐまくらぶ明石事業所は、来場者の方が「自分で作るトナカイさんのオーナメント」を飾るためのクリスマスツリーも担当させて頂きました。「皆さん作ってくれるかなー。」と心配しましたが、数日後にはクリスマスツリーが見えなくなるほど、トナカイさんのオーナメントでいっぱいになり、とても素敵なアートに変身していました。クリスマスツリーを作った利用者様は大喜びで、その様子を見ていた職員も嬉しさのあまり、たくさんの笑みがこぼれていました。

会場では、展示しているお隣の事業所の利用者様同士が、励まし合う姿も見られました。このような貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。





## こころを動かす「アートシップ」

明石市立木の根学園

藤井 杏摘さん

木の根学園では、毎年アートシップに出展しており、4月頃からみんなでどんな作品を作りたいかを話し合い、役割を分担しながら、こつこつと作品を作り上げてきました。

制作中は、もくもくと集中して取り組まれる利用者さんも多くおられ「自分の作品が飾られるんだ!」「早く展示されているところを観に行きたい!」と"ドキドキワクワク"な気持ちが伝わってきました。

発語があまり得意でない利用者さんと展示を観に行った時のこと。展示されている作品を指差して、ジェスチャー&単語で「作りたい!!」「これ作る!!」と職員と一緒に展示を観に来ていた利用者さんに伝えておられました。「良いですね、みんなで作りましょう」と職員がお伝えすると、嬉しそうに満面の笑みで、「はい!!」と返事をされていました。楽しい気持ちを噛み締めるように、会場を出るまで繰り返し自身の想いを職員に伝えておられました。



また別の利用者さんは、お神輿の作品をみて「わっしょい! わっしょい!」とジェスチャー&掛け声で楽しそうな様子でした。会場から帰ってきてからも、職員に「アートシップはどうでしたか?」と聞かれると、「わっしょい! わっしょい!」と嬉しそうにどんなものを見たのか伝えていました。

「作ってみたい」「楽しい」「すごい」「キレイ」「可愛い」...。展示作品を観て、利用者さんからいろんな想いが伝わってくることに、私自身も心を動かされました。作品を作り、観てもらい、他の人の作品も観る。アートシップは人の心を動かす、利用者さんにとっても職員にとっても、素敵なイベントだと思います。



明石市立あおぞら園・きらきら

藤原 慶子さん

今回、アートシップを初めて担当させていただきました。初めて担当させていただき感じたことは、繊細で色鮮やかな作品から、ダイナミックで個性的な作品、一つの事業所が一体となって完成させた作品などすべての作品がどれも素晴らしく、アートの幅広さを深く感じる事が出来ました。どの作品も「自己表現」から始まり、それがアートとして集結した時に多くの人から認めてもらい、感動してもらえるものとなるのだと感じました。

今回あおぞら園、きらきらは、アートシップに向けてボディペインティングに取り組みました。お子様が楽しく、自発的に、そして自由に表現できるように絵の具や紙の質感、道具など環境作りにこだわりました。絵の具の感触や汚れる事が苦手なお子様も自ら筆を手にしたたり、絵の具の感触

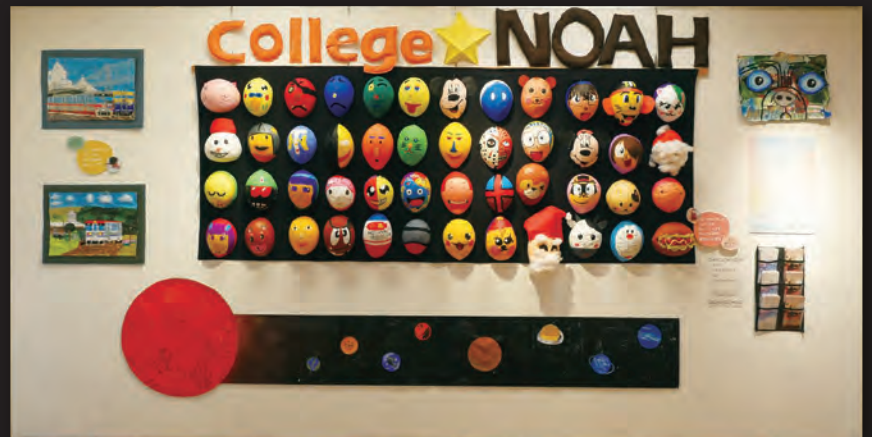


を感じる姿が見られました。ただ単に「描く」だけではなく、自分自身をキャンバスにして全身で表現する姿に「こんな表現方法があるんだ!」と見守る大人たちは驚きの連続でした。お子様の自然と広がる笑顔がとても印象的で、普段見ることが出来ない表情をたくさん見せてくれました。

日々の生活の中で「今」のお子様の姿を認め、お子様の意思や思いを大切にしていって中で「自己肯定感」を育むことができる経験をたくさんつくっていききたいと思います。



# ARTSHIP明石2023 出展作品紹介







## 「ARTSHIP明石2023」クリスマスイベントを行いました!!

令和5年12月10日(日)に同所にてイベントが行われました。

Lobby Concert ロビーコンサート 開催  
1階ロビー

柊 幸弘による折り紙パフォーマンス&  
ワークショップ 13:00~ 1階ロビー



カノンムジーク  
トリオE134



定延 由希子



長谷川 緑



藤井 香櫻



リードオルガン演奏  
中村祐子



ハンマーダルシマー演奏  
Nobuko ♪



ゴスペル演奏  
Gem Chord



### 「折り紙パフォーマンス&ワークショップ」

柊氏によるライブパフォーマンスののち、子どもたちへ向けて折り紙のワークショップを行いました。



配慮が必要な人のために



# ヘルプマーク・ヘルプカードを知っていますか？

ヘルプマーク(カード)は、「手助けが必要な人」と「手助けしたい人」を結ぶマーク(カード)です。

障害のある人がまちに出たとき、予想もしていなかった場所で思わぬ困りごとが起こることがあります。

周りの人はそのようなときに助けを求められても「どう支援していいかわからない」という場合があります。

そこで、その両者をつなげるためのきっかけになるのがヘルプマーク(カード)です。



ヘルプマーク



ヘルプカード



## こんな方にお渡ししています

- 目や耳、言語の障害、内部障害や難病、知的障害、精神障害、発達障害など、外見では不自由さや障害に気づかれにくい方
  - 妊産婦の方
  - 認知症の方や高齢で体が不自由な方
  - けがなどにより体が不自由な方
- ※以上のほか、希望される方にお渡ししています。



## ちょっとしたあなたの手助けが、誰かの安心につながります

ヘルプマーク(カード)を持っている人への支援の内容はさまざまです。

まずはヘルプマーク(カード)を持った人が困っているところを見かけた場合は、「何かお手伝いできることはありますか？」などと積極的に声をかけるように心がけてください。

本人が何かしらの事情でうまく支援の内容を伝えられない場合は、ヘルプマーク(カード)の裏面または中身を見て、支援の方法が記載されている場合は、その方法で支援をするようにしてください。

まずは「声をかけること、気にかけること」がとても大切です。

私は〇〇(名前)です。  
何かお手伝いしましょうか。



例えば...

こんなとき、こんな場面を見かけたら ➡ こんな手助けをお願いします。

- 発作でパニックを起こしたり、病変で急に倒れてしまって、自分の病気や障害を説明できないことがあります。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。  
ヘルプマーク(カード)にパニックや発作、病変のときにどうしてほしいかが書かれていれば、その方法で支援してください。

- 知的障害のある人がずっと同じ場所にいる。  
それは、もしかしたら、道がわからなくなったのかもしれない。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。  
ヘルプマーク(カード)に緊急連絡先が書かれていれば、そこに連絡してほしいか聞いてください。できるだけ安全な場所で過ごせるように配慮をお願いします。

### 【お問い合わせ・連絡先】

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

明石市障害福祉課 障害者施策担当

TEL 078-918-5142 FAX 078-918-5048

E-mail shoufuku@city.akashi.lg.jp ※ヘルプマークの交付には、申請手续が必要です。

【発行】特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク(通称:135Eネット)

【連絡先】〒673-0883 明石市中崎1丁目5番1号 時のわらし内 TEL&FAX 078-918-8500 【発行日】2024年2月28日

特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク(通称:135Eネット)は、地域に点在する社会資源を有機的に繋ぐと共に明石市等の行政機関と協同し、障がい者に対して社会参画促進や生活支援に関する事業を行い、障がいのある方やその家族の方が、ひいては明石で暮らす市民の方々が明石の地で安心して暮らせるまちづくりに寄与することを目的としています。

※現在明石市及び周辺地域の100以上の障がい児者支援事業所や教育機関、当事者団体が連携・連帯のもと活動しています。



<ひなたぼっこHP>

<https://akashi-ud.info/>